

令和4年度第2回第1層協議体会議

会 議 録

日 時 令和4年9月30日（金）午後3時～4時30分

場 所 大田原市役所 101会議室

出席委員 8名（細井直人委員長、松本町子副委員長、相馬仁美委員、石下真弓委員、小野珠江委員、弓座ちひろ委員、湯浅泰正委員、宮澤武夫委員）

内 容

1 開会

2 あいさつ【細井委員長】

3 議題

(1) 地域活動の推進

令和2年度のグループワークから意見があがっていた「他市町村の活動」や「市内の通いの場」などの視察について、計画していきたい旨説明。行き先については下記の通り委員から説明があった。

【那須塩原市社会福祉協議会について（松本委員）】

地域の拠点となるような場所には第2層の生活支援コーディネーターがおり地域の人との交流が図れたらいい、と考え、那須塩原市社会福祉協議会に話を伺ったことがある。

那須塩原市には地区社協にあたるものはないが、公立公民館に第2層のSCが常駐し、地域の方々が立ち寄ったり、おしゃべりしたり、相談したりと交流の場になっている。いつでも人が絶えること無く誰かが来ているとのこと。

第2層SCが地区公民館に常駐すること（地区公民館を地域活動の拠点とすること）によって、地区公民館はコミュニティセンターとしての役割をもち地域づくりに一役買うことができると考える。こうした場で社会福祉協議会が地域のいろいろなニーズを発見出来たらいい。

那須塩原市社会福祉協議会職員から「選ばれる法人を目指している」という力強い言葉があり印象的だった。

第1層協議体で、地区公民館やコミュニティセンターにあたる施設を見学するとともに、那須塩原市社会福祉協議会の話を知りたいと考える。

【通いの場について（相馬委員）】

見学可能・良い活動をしていると感じている通いの場について資料1の通り説明した。

(2) マイボトルの使用について

第1層協議体では身近な問題に取り組むため、プラスチックごみを減らしていくためのサステナブルな取り組みとしてマイボトルの使用を推進する。その一環として、今回の会議において、持ってきている委員はマイボトルを持って、そうでない委員も事業への賛同者として集合写真を撮影し、情報発信する。

また、第1層協議体として連帯感を生むため、オリジナルシールをマイボトルに貼付し、集合写真を撮影した。



(3) グループワーク (資料2)

テーマ「通いやすいサロン、継続しやすいサロンとは」

資料2裏面の進め方に従い、テーマについてグループワークを実施。

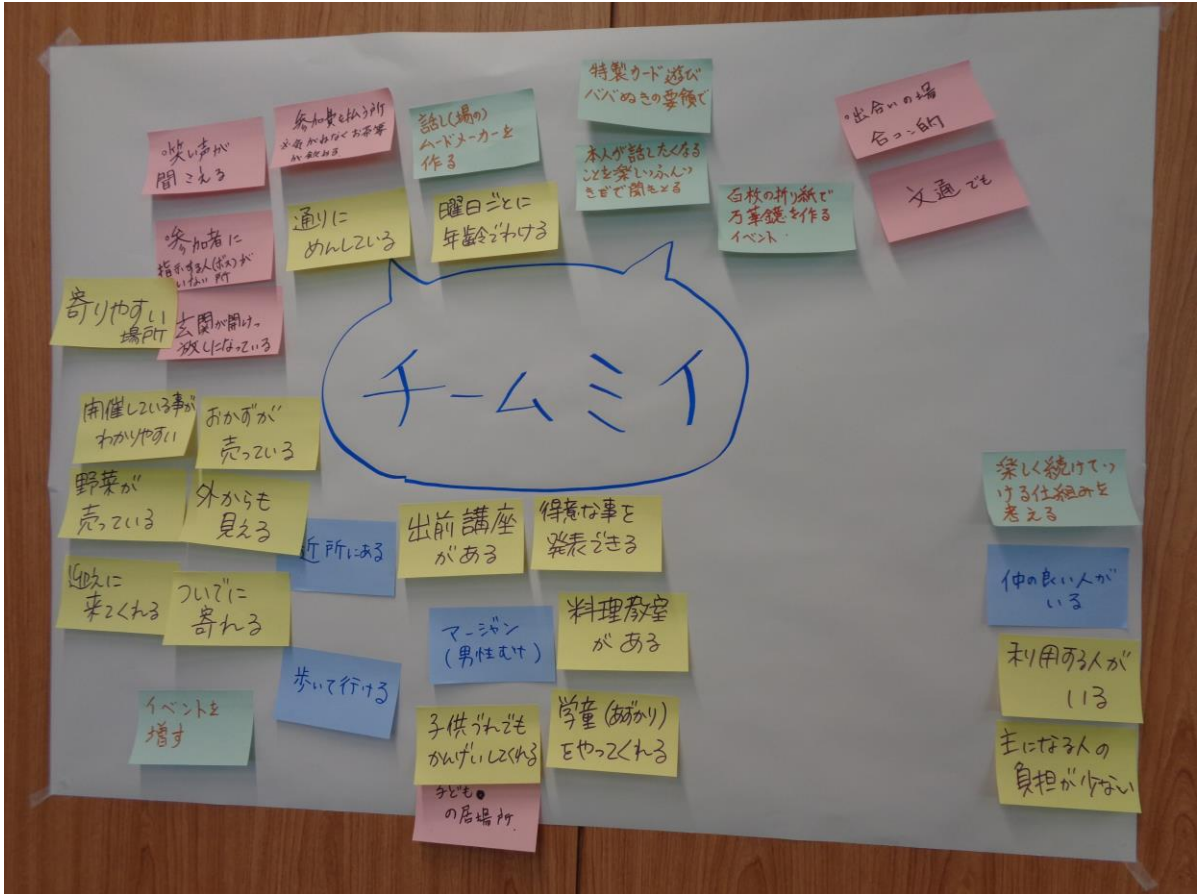
資料2では委員を3グループに振り分けていたが、急遽欠席者が出たため、A班・B班の2班に変更となった。

今回は新体制での初めてのグループワークであるため、委員同士の交流を深めていくことを中心として、テーマに沿って自由に意見を出し合った。



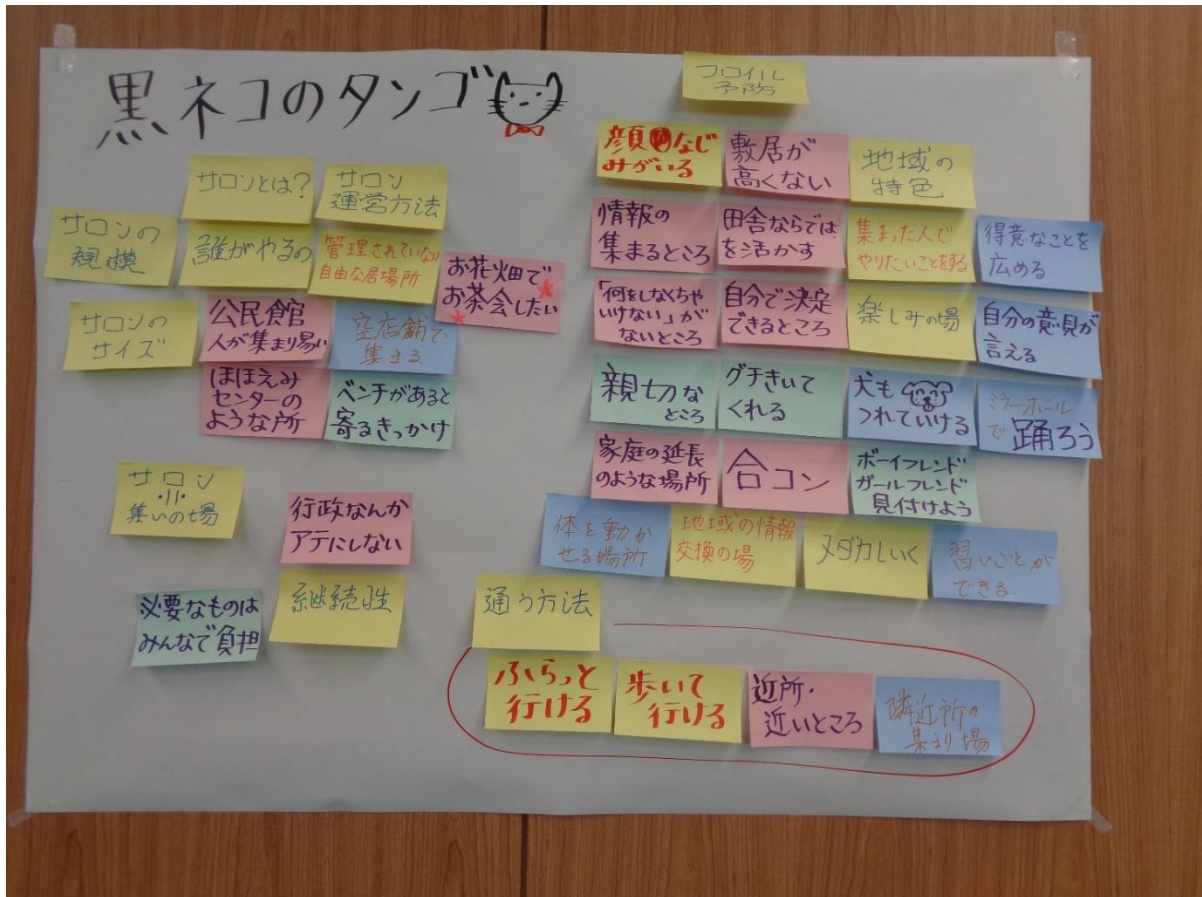
Aグループ (チームニックネーム 『チームミイ』)

メンバー：相馬委員、石下委員、湯浅委員、弓座委員



Bグループ (チームニックネーム 『黒ネコのタンゴ』)

メンバー：細井委員長、松本委員、小野委員、宮澤委員



4 事務連絡（事務局から）

・与一いきいきメイトの活動場所の拡大について（資料3）

与一いきいきメイトは、養成講座を受講した65歳以上の市民で、介護予防のためのボランティア活動を通じて社会参加と介護予防の推進を図り、健康でいきいきとした地域づくりを推進するために行っている事業。これまで高齢者ほほえみセンターが主な活動場所となっていたが、活動場所を増やしてほしいというメイトや地域からの要望を受け、要綱を改正し、本年度から「ささえ愛サロン」も活動場所として取り扱うこととなった。

・下野新聞記事「フレイル・コロナ禍で増加」（資料4）

今年の8月21日の下野新聞掲載記事。就労、余暇活動、ボランティア活動への参加機会が減ったことが影響しフレイルが増加した。状態が回復した方もいて、それは趣味に取り組んでいる人が多いという調査結果となっている。

感染症対策に留意しながら社会活動に参加することがフレイル予防には必要であることが調査結果からもはっきり示されている。

サロンや通いの場の重要性が示されており、身近な通いの場を推進したいと考えているので協力をお願いしたい。

・次回会議予定

社会情勢を見ながら検討するが令和5年1月中旬ごろを予定。

5 いちご一会ダンス（資料5）

第1層協議体では、今年度から会議ごとに各種の体操を実践している。

今回の会議では国民体育大会 いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会のPRダンスである「いちご一会ダンス」を実践した。